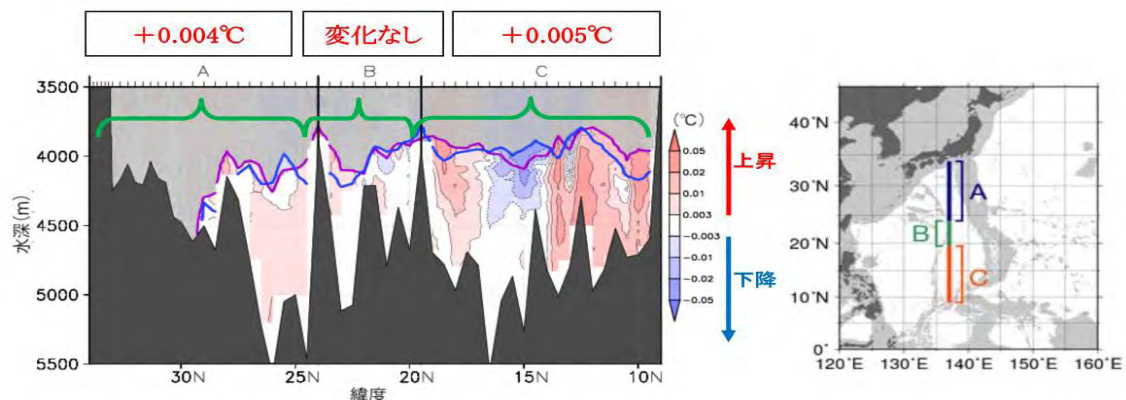


◆ 地球温暖化に関する新たな海洋観測の成果

このため気象庁は、海洋気象観測船（凌風丸及び啓風丸）の観測結果とともに気象庁も参加する国際的な海洋観測網で得られたデータをもとに、地球温暖化をはじめとした気候システムに影響を与えるような変化が海洋内部で起きているか、太平洋域の海洋の状況について解析を行い、以下の新たな知見が得られました。

- 1 太平洋域の海洋が吸収している二酸化炭素の吸収量に、長期的な変化は見られなかった(太平洋域の吸収量は炭素換算で年間約 6.5 億トン)
- 2 北西太平洋域における二酸化炭素量について、近年の状況が明らかになった(過去 16 年間で海面から水深 500m 程度の深さに含まれる二酸化炭素量が増加)
- 3 北西太平洋域における底層(概ね水深 4000m 以深)の水温が、過去 16 年間で 0.005℃上昇が確認された

* 海洋の健康診断表 : <http://www.data.kishou.go.jp/kaiyou/shindan/index.html>



東経 137 度における海洋底層の水溫変化（左：2010 年と 1994 年の水溫差）
（気象庁ホームページから）